

インターバンクの声（2015年2月6日）

翌日に1月の米雇用統計の発表を控えた欧米市場では、とりわけ為替市場が穏やかな取引を続けた。やや纏まった動意があったのは日本時間午前2時から3時頃にかけて、ドル円やユーロ・ドルの上昇した時くらいだ。原油価格の上昇、ニューヨーク・ダウの上昇、スイス中銀のユーロ買い・スイスフラン売り介入の噂、欧州中央銀行（ECB）がギリシャ中銀に対する緊急支援を認めた、などのリスクセンチメントが和らぐ材料が伝わったことが好感されたようだ。それでも主要通貨は、およそ最近の取引レンジから大きく逸脱することもなく、米雇用統計での非農業部門就業者数や賃金上昇率の変化に新たな相場の方向感を求めることになりそうだ。一時バレル35ドル位まで下がるのではとも危ぶまれた原油価格も50ドル台まで戻している。リビアが原油産出量を減少させたことが背景にあるらしいが、産出量維持を唱えて来たOPEC加盟国の足並みが乱れて来た兆候ならば、今後の原油価格見通しも難しくなってくるだろう。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。